

夏補習（助動詞特講）④

● p50 助動詞12 「なり」（伝聞・推定） ● p51 助動詞13 「なり」（断定）

補足

終止形接続の「なり」が「推定」になるのはどんな時か、次の例文を参考にしながら説明せよ。

（例）秋の野に人まつ虫の声すなり。

補充

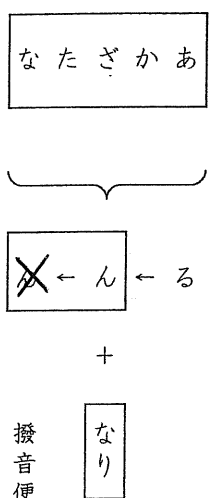
「なり」の識別 梓囲みの説明として適当なものを、左の語群からそれぞれ選べ。

- 1 春になり、花が咲く。
- 2 中宮、いとあてなり。
- 3 夢にも人に会はぬなり。
- 4 タされば野辺の秋風身にしみて鶉鳴くなり深草の里
- 5 物語の多くあんなり。いかで見ばや。

a 断定の助動詞 b 伝聞の助動詞 c 動詞 d 推定の助動詞 e 形容動詞の活用語尾

補充

「あかざたなの法則」



撥音便化・撥音便化無表記の時は

テキスト掲載問題より

▼伝聞・推定の助動詞「なり」に傍線を引き、その文法的意味を答えなさい。

- 7 御衣の音なひ、「さばかりななり」と聞きみたまへり。
- 8 「萩の葉、萩の葉」と呼ばすれど、答へざなり。
- 9 また聞けば、侍従の大納言の御女、亡くなり給ひぬなり。
- 10 駿河の国にあなる山の頂に、

▼断定の助動詞「なり」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

- 7 女もしてみむとてするなり。
- 8 「さらば、その遺言なりな。」
- 9 京なる女のもとに、
- 10 いかに思ひはじめけることにか、

● p52 名作に親しむ『土佐日記』冒頭文 ① 助動詞をので用み、右横に意味を記せ。

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。

その年の、十二月の、二十日あまり一日の日の、戌の時に門出す。そのよし、いささかにも
のに書きつく。

ある人、県の四年五年はてて、例のことどもみなし終へて、解由など取りて、住む館より出でて、
船に乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろ、よく比べつる人々なお、別れ
がたく思ひて、日しきりに、とかくしつつののしるうちに、夜ふけぬ。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。藤原のときぎね、船路なれど、馬のはなむけす。
上中下酔ひ飽きて、いとあやしく、塩海のほとりにてあざれあへり。

● p54 助動詞14「めり」

補足 「めり」の訳はとにかく「ようだ」。

テキスト掲載問題より

▼助動詞「めり」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

7 かぐや姫の、皮衣を見ていはく、「うるはしき皮なめり。」

● p55 助動詞15「まし」

補足 「くせば、…まし」の「せ」をめぐって

補足 中世以降、「推量」(くだろう)の意味で「まし」が使われる例も出てくる。

テキスト掲載問題より

▼助動詞「まし」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

7 入りたらしましかば、「みな射殺されなまし。」

8 いかにせまし。

9 夢と知りせば 醒めざらましを

● p56 助動詞16「まほし」

補足 願望の助動詞として他に「たし」もあり。

▼助動詞「まほし」に気をつけて、傍線部を現代語訳しなさい。

9 この宮仕へ本意にもあらず、巖の中にこそ住ままほしけれ。

夏補習（助動詞特講）⑤

● p58 名作に親しむ『大鏡』冒頭文 助動詞を○で囲み、右横に意味を記せ。

先つ頃、雲林院の菩提講に詣でて侍りしかば、例人よりはこよなう年老い、うたてげなる翁二人、姫と行きあひて、同じ所に居ぬめり。『あはれに、同じやうなるものさまかな』と見侍りしに、これらうち笑ひ、見かはして言ふやう、「年頃、『昔の人に対面して、いかで世の中の見聞く事どもを聞こえあはせむ。このただ今の入道殿下の御有様をも申しあはせばや』と思ふに、あはれにうれしくも会ひ申したるかな。今ぞ心やすく黄泉路もまかるべき。おぼしき事言はぬは、げにぞ腹ふくるる心地しける。『かかればこそ、昔の人はもの言はまほしくなれば、穴を掘りては言ひ入れ侍りけめ』とおぼえ侍り。かへすがへすうれしく対面したるかな。さてもいくつになり給ひぬる」と言へば、く

最後に再掲 (1) 次の各文の枠囲みについて、助動詞はその意味を答えよ。助動詞でない場合は×をつけよ。
(2) 各文を現代語訳せよ。

① 死 **に** **し** 子、顔よかりき。

② 心なき身にもあはれは知ら **れ** **けり**

③ あたら夜の月と花とを同じくは心知れ **ら** **む** 人にみせばや

④ 春立てば消ゆる氷の残りなく君が心は我に解け **な** **む**

⑤ 古き塚はすかれ **て** 田と **なり** ぬ。

⑥ 堂の物の具を碎け **る** **なり** けり。

⑦ やがてかけこもら **まし** **か** ば、口惜しから **まし**。

⑧ 女のえ得 **まじ** **かり** けるを、年を経てよばふ。

⑨ 主を見 **たら** **ば**、告げよ。

⑩ 女房にも歌詠ま **せ** 給ふ。